

122 弟子たちへの教え(1)

ルカによる福音書 12 : 1~12

01 とかくするうちに (→そうこうしているうちに)、数えきれないほどの群衆が集まって来て、足を踏み合うほどになった。

→とかく：兎角＝さまざまな物事を漠然とさす。何や彼や。いろいろ。

イエスは、まず弟子たちに話し始められた。

「ファリサイ派の人々のパン種 (→正しくない教え) に注意しなさい。それは偽善である。

→ (リビング・バイブル) 何よりも、パリサイ人の偽善ぶりに注意しなさい。ほんとうは悪いことをたくらんでいるのに善人ぶる者たちのやり方に、ごまか (→誤魔化) されてはいけません。

→パン種：通常は酵母菌ですが、ここは比喩的表現で、「正しくない教え」を指す。⇒偽善

02 覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはない。

→ (リビング・バイブル) しかし、そういう偽善は、いつまでも隠しおおせるものではありません。やがてパン種 (パンの製造に使用する酵母) のようにふくれ始め、だれの目にもはっきりします。

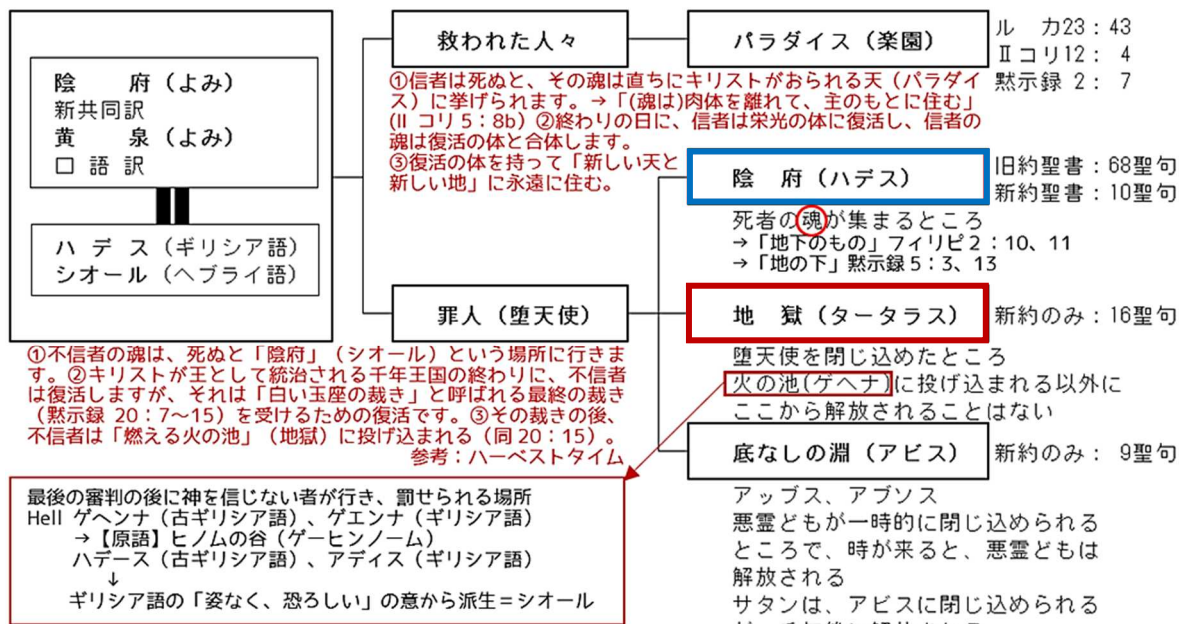
→すべては明るみになる。嘘をつかない。

03 だから、あなたがたが暗闇で言ったこと (→神のメッセージ) はみな、明るみで聞かれ、奥の間で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる。」

04 「友人 (→ギリシア「フィロス」) であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。

→ (リビング・バイブル) 親しい友よ。体を殺しても、たましいには指一本ふれることができない者たちを恐れてはいけません。

05 だれを恐れるべきか、(密かに) 教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方 (→神) だ。そうだ。言うておくが、(裁き主である) この方を恐れなさい。



ペトロの手紙 2 : 9

主は、信仰のあついで人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。

06 **五羽の雀がニアサリオン** (= 1 デナリオンの 1/16→ニアサリオン=1/8 デナリオン、マタイ 10 : 29 では、「二羽の雀が一アサリオン」) **で売られているではないか。だが、その一羽さえ、神がお忘れになるようなことはない。**

→二羽 (一アサリオン) +二羽 (一アサリオン) +一羽 (無料=サービス?) =五羽 (ニアサリオン)

07 **それどころか、あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」**

→神の赦しがなければ何も起こらない。

08 **「言うておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言ひ表す者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言ひ表す。」**

09 **しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、神の天使たちの前で知らないと言われる** (→聖書協会共同訳：拒まれる、回復訳：否まれるであろう)。

10 **人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒瀆する** (→イエスがメシアであることを否定する) **者は赦されない。**

→ (リビング・バイブル) たとえ、わたしに逆らっても赦されます。しかし、聖霊を汚す者は絶対に赦されないのです。

11 (裁判を受けるために) **会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。12 言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」**

→ (リビング・バイブル) 裁判を受けるために役人や会堂の権力者たちの前に引き出されても、どう釈明しようかなどと心配してはいけません。聖霊が、時になつたことばを教えてくださるからです。」

【一言】「きりしたんころび証文」長崎市 西勝寺

証文には棄教し「キリシタン目明し」となったポルトガル、イエズス会宣教師・**沢野忠庵** (クリストバン・フェレイラ、1609 年/慶長 14 年頃に来日し、京都、大坂など上方を中心に布教活動を行い、1632 年/寛永 9 年に同会日本管区長となった) の誓書が書き添えられている。



島原の乱 (1637~38、九州島原半島南部と天草諸島のキリシタン農民が、信仰の復活、租税の重圧の解放のため、幕藩権力と抗戦した) 後、徳川幕府によるキリシタン弾圧は強化され、多くのキリスト教徒が転宗を余儀なくされた。転宗することを「転び」と呼び、再びキリスト教に立ち帰らないことの証として、神仏に誓う起請文、「ころび証文」を書かされた。ころび証文は、日本の神仏に対する「日本誓詞」だけでなく、デウス、サンタ・マリア、諸天使、聖人等にも誓う、「南蛮誓詞」となっている点が特徴である。

奥書きには、キリスト教を棄教した「ころび伴天連」である**沢野忠庵・後藤了順・荒木了伯**の名がある。沢野忠庵はイエズス会宣教師、後藤了順はセミナリヨ (修道士育成のための初等教育機関) で学び後に司祭となった、そして荒木了伯は留学生としてローマへ派遣された人物である。棄教後、3人は、長崎奉行の下、キリシタンの取締りに従事した。この証文 (非公開) は、本来は奉行所に提出するはずのものでしたが、書き損じたため、たまたま西勝寺に残っていた。(参考/出典：長崎市)

→キリスト教禁止令で禁制扱いになった宗教は「邪宗門」と呼ばれた。江戸幕府 (徳川秀忠) は、領主制や農奴制を下部構造として持つ、封建国家体制の確立にキリスト教は障害となると判断し、慶長 18 年 (1613 年) 全国に禁令 (高札) を出した。明治維新後も、禁制が続けられたが、諸外国から非難されたため、明治 6 年 (1873 年)、この禁令 (高札) は撤去された。